



12月給食たより



令和3年度
山梨市教育委員会

今年も残り3週間ほどとなりました。2021年はオリンピックがあり、みなさんはスポーツを通して世界へ目を向けることが多かったのではないのでしょうか。今回は1961年に飢餓のない世界を目指して創設された、国連WFP（国際連合世界食糧計画）の取り組みを紹介します。

世界の食料事情と国連WFP

ホームページの
QRコード →



11人に1人が飢えで苦しむ



©WFP/ Alaa Noman

世界の11人に1人が十分な食料を得られない状況で生活しています。新型コロナ禍や気候変動などの影響でさらに増加し、推計8億1100万人（世界人口の約1割）が飢えに苦しんでいます。

小さな子どもと保護者のための支援



©WFP/ Shehzad Noorani

2歳までに十分な栄養をとれないと、体や脳の発達が遅れ、影響が生涯にわたるおそれもあります。健康のために良い食事を選択できる力を高めるための支援を行っています。

子どもの学びを支える学校給食



©WFP/Emily Fredenberg

世界には、毎日空腹のまま学校に通い、授業に集中できずにいる子どもが多くいます。学校給食は栄養や健康状態を改善するだけでなく、子どもたちの学校での学びを支える大きな力になります。

災害・紛争時の緊急支援



©WFP/ Rein Skulterud

紛争や大災害が起きたとき、まず必要となるのが食料です。国連WFPはいち早く被災地域に入り、人々の命をつなぐための食糧支援活動を行います。

深刻な食品ロス



世界で作られた食料の約1/3が失われ、無駄になっています。世界の全人口を養うのに十分な食料が生産されているにも関わらず、8億人以上が毎晩空腹で眠りにつきます。

私たちにできることは？

地球は小さい星です。食糧不足の問題を、どこか遠い国で起きている出来事と考えるのはいいかもしれません。もう少し世界の不平等に目を向け、世界レベルの思いやりを持つと、見えてくることがありそうですね。

